

10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連 (四国)	◎	美容室（経営者）	来客数の動き	・今年の12月は人の動きに活気が出て、かなり忙しい月となっている。
	○	商店街（常務理事）	来客数の動き	・商店街でもインバウンドの数は日増しに増加する傾向にある。これまで、ドラッグストアや土産物としての食品の購買が中心であったインバウンドの消費が、最近では地方でも単価の高い衣料品や雑貨にも購買が広がり始めており、幅広い業態でのインバウンド消費の拡大に期待が高まっている。
	○	商店街（代表者）	お客様の様子	・行動制限が解除されて初めての年末年始となり、多少なりとも客の行動が活発になっている。飲食店やレジャーの予約も少しずつ戻ってきている。交通機関の予約状況や週末の行楽地の混雑具合をみても、にぎわいが戻ってきており、逆に混雑を感じることもさえる。
	○	スーパー（企画担当）	単価の動き	・商品の値上げの影響により、商品単価は前年を上回って推移している。来客数はほぼ前年並みの推移であり、単価の上昇分が売上の増加要因となっている。
	○	スーパー（財務担当）	来客数の動き	・ここ4か月は来客数が前年度を上回っている。
	○	その他専門店〔酒〕（経営者）	来客数の動き	・年末を迎えて大変にぎわっており、景気は良い方だと考える。
	○	その他小売〔ショッピングセンター〕（総務部担当部長）	販売量の動き	・今年度に入り、アフターコロナのもとでの消費回復が徐々に進んでいたが、それに加えて今月も、地域クーポンを利用した購入が多かったため、施設の売上拡大に大きな後押しとなった。
	○	タクシー運転手	お客様の様子	・12月は3か月前と比べて、忘年会等により週末のみ繁忙時期に戻っているが、個人タクシーにおいては半分が廃業しており、営業車もコロナ禍明けから離職者が増え、稼働率は50%から60%程度となっている。台数が少なかったため、少し忙しかったとみられる。
	○	競輪競馬（マネージャー）	販売量の動き	・前月に続き、物価上昇も緩やかになってきており、先々の不安が縮小傾向にあるとみられ、売上は回復傾向にある。
	○	美容室（経営者）	お客様の様子	・年末で正月に向けて来客数が増えている。
	○	設計事務所（所長）	お客様の様子	・観光の面では、韓国・中国からのインバウンドが確実に増加しており、忘年会の人出も新型コロナウイルス感染症発生前の水準へ戻っている。また、建築業界ではビッグプロジェクトも始まった。
	□	商店街（代表者）	それ以外	・コロナ禍が落ち着いたとはいえ、国内外共に激動の1年であった。ただし、大手企業を中心に経済はコロナ禍の反動を含めて順調であったため、株式市場は33年ぶりの上昇を記録し、これが消費市場にも影響を与えたのではないかと考える。ただし、新年まで問題は全て持ち越され、金融政策の変更が零細企業にとって深刻な問題と考える。
	□	一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症の分類が5類感染症に移行した年末であったが、飲食店の忘年会等の会食が控えられた影響なのか、飲食店への納品はふだんと変わらず、売上は低迷したままであった。
	□	一般小売店〔生花〕（経営者）	単価の動き	・商品の値上がりも定着して、ほとんどの人に理解されるようになってきた。しかし、一部の客の中には、以前のように安い商品で豪華にするよう求める人もおり、現状を十分に理解していない人もいる。
□	一般小売店〔書籍〕（営業担当）	販売量の動き	・11月に引き続き、店頭売上は低迷しており、一方で外商売上は好調が続いている。	

	□	スーパー（人事）	販売量の動き	・11月下旬から動向が鈍化している。ブラックフライデーなど、別の機会に資金を使っている可能性もあるが、商品の値上がりが落ち着いた結果、商品単価も頭打ちとなり、販売金額が低調となっている。
	□	コンビニ（商品担当）	単価の動き	・物価高が依然として継続している。
	□	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・ここしばらくは快調であったが、非常に大きな前年の数字に対して余り伸びがみられなかった。減ったという感覚はないが、横ばいという印象が強い。
	□	衣料品専門店（営業責任者）	販売量の動き	・今月は前年の売上をやや下回って推移している。特に暖冬の影響もあり、秋冬衣料の動きが悪く、集客に苦戦している。
	□	家電量販店（店員）	販売量の動き	・ボーナス商戦も思ったほどの集客がなく、販売量もほぼ変わらない状況である。
	□	観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・日本人観光客の旅行需要は一時のリベンジ消費を吸収し一服しているが、地方空港の海外便の受入れが順次進んでいるため、トータルの宿泊客数は底堅く推移している。
	□	通信会社（営業部長）	来客数の動き	・来客数に変化がない。
	□	通信会社（社員）	販売量の動き	・契約者数は、変動なくいつもどおりに獲得できている。
	□	観光遊園地（主幹）	来客数の動き	・来場者数に大きな変動がなく、良い意味で安定している。
	▲	スーパー（店長）	来客数の動き	・来客数が前年を下回っている。
	▲	スーパー（統括担当）	単価の動き	・単価が上がり、来店者が減る状況は、いい状況とはいえない。
	▲	コンビニ（店長）	単価の動き	・来客数は増加しているが、商品価格が上昇しており、客単価は下がっている。買いたい気持ちはあるものの、購入が難しいといった印象を受ける。
	▲	コンビニ（店長）	来客数の動き	・前年比で見ても、来客数と売上共にマイナスとなり、今年のクリスマス商戦及び年末商戦も、前年と比べて減少しており、購買意欲も減退している。
	▲	コンビニ（総務）	来客数の動き	・来客数が鈍化している。
	▲	家電量販店（副店長）	販売量の動き	・今年は暖冬傾向で、季節・暖房商品の動きが鈍く、前年を下回っている。
	▲	乗用車販売業（営業担当）	販売量の動き	・多くの車種が改良や長納期のため、注文ができない状況である。
	▲	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・下期において、新車受注台数が前年比で減少傾向が続いている。
	▲	乗用車販売店（役員）	それ以外	・年末を迎え、レジャーなどへの消費先の変化と受注制限車種の増加がみられる。
	▲	都市型ホテル（経営者）	来客数の動き	・昨期の全国旅行支援の反動がみられ、宿泊客の動きが鈍くなっている。
	×	一般小売店〔文具店〕（経営者）	来客数の動き	・受注量は2～3か月前と比べ、大幅に減少している。取引先の客も今後の景気動向を注視し、買い控えをしている状態である。また、仕入単価も少しずつ上がっており、2～3か月後の見通しは不透明であり心配である。
	×	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・前月と同様、物価高の影響により衣料品の買い控えがあるのではないかとみられ、客が金を使わなくなっている印象を受ける。
	×	タクシー運転手	それ以外	・忘年会シーズンなどが新型コロナウイルス感染症発生以前の年末に戻っており、売上はそこそこあるが、それ以前に燃料費等の高騰により給料が大幅に下がっており、景気は良くない。
企業動向関連 (四国)	◎	通信業（企画・売上管理）	受注量や販売量の動き	・年末商戦や交通レジャー関係のCMが活況である。
	○	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・今月は若干の受注があり、良かった。
	○	金融業（副支店長）	取引先の様子	・取引先からの情報では受注状況も順調であり、これを踏まえて景気は良くなっていると考えられる。

	□	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・主原料である綿糸価格は一時の高騰から現在では落ち着いているが、その他の加工賃や賃金が上昇しており、これに伴い一部商品を12月から値上げをした。そのため、11月には一時的な需要が発生した関係で、今月の受注は落ち着いている。
	□	鉄鋼業（総務部長）	受注量や販売量の動き	・主力の造船関連及びその他の産業機械関連においても、受注状況に大きな変化はみられない。
	□	一般機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・我が国は大規模工事が実施・計画されており、需要は堅調に推移している。海外は緩やかな景気回復を背景に、アフリカを除く全ての地域で需要が増加傾向にある。
	□	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・新規販売や営業がなかなか決まらないため、景気は変わらず、物価高や社会情勢の影響でものが動かない状況である。
	□	輸送業（経営者）	受注量や販売量の動き	・大きく変わる様子はないとみられる。
	□	通信業（総務担当）	それ以外	・ボランティア活動等の社外イベントの参加者数もおおむね横ばいが続いており、イベントの開催機会自体も増減はみられない。
	□	税理士事務所	取引先の様子	・最近では、利益に変動がみられない顧問先が増加している。
	▲	農林水産業（職員）	受注価格や販売価格の動き	・青果物の卸売価格は、市場入荷量が少なく堅調に推移してきたが、12月に入ると野菜全般において入荷量は回復し、価格も落ち着いている。年末需要による価格高騰も絶対量不足の品目にしか影響がなく、忘年会等の人流が回復しているにもかかわらず低調な荷動きがみられる。物価高騰が生鮮食料品の購買を抑えている。
	▲	木材木製品製造業（営業部長）	受注量や販売量の動き	・受注量が減少している。また、資材高騰の影響を受けて住宅価格が大幅に上昇している。その結果、住宅着工件数が減少し、分譲住宅にも影響が出ている。
	×	建設業（総務）	受注価格や販売価格の動き	・資材の入荷が難しくなっており、現場に支障が出ている。
雇用 関連 (四国)	◎	—	—	—
	○	人材派遣会社（役員）	周辺企業の様子	・新型コロナウイルス感染症に関する規制がない今年は、冬のイベントが各施設で開催され、集客人数が前年比120%とにぎわいがある。そのため、人材不足は慢性的な課題となっており、賃金を上げてでも集客サービスに対応できる人員体制の整備が求められている。
	□	求人情報誌（営業）	採用者数の動き	・引き続き求人数は高止まりしているが、例外を除いて、給与・勤務時間・福利厚生など好条件を提示できる企業のみが人材を確保しており、待遇面の改善ができない地元中小企業では人手不足のままとなっている。
	□	職業安定所（求人開発）	周辺企業の様子	・乾物を扱う製造業1社から飲食業の復活により売上が増加したとの回答があったが、依然として収益は上がらず、スーパーなどに値上げの要請を続けている状況である。また、業績の良い大型スーパーでもクリスマスの過剰な電飾を控えるなど経費削減を行っている。人手不足の基調のなか、新規求人数の派遣求人割合は前月より多くなり、先行きの不透明感が増している。
	□	民間職業紹介機関（所長）	求人数の動き	・特に変化はみられない。
	▲	*	*	*
×	—	—	—	